

提言 3

家族でむきあう場をつくりましょう。

・・・心のキャッチボールはできていますか？

〈調査からわかったこと〉

子どもの健全な成長のために家族のコミュニケーションが大切なことは、誰もが認めるところです。そこで、休日の過ごし方や家族との話題などについて質問しました。

すると、休日に「家で」過ごすと回答した子の割合に対し、誰と過ごすかでは「家族と」と回答した子が少ないことがわかりました。このことから、家にいるにもかかわらず家族と過ごしているとは感じていないことがうかがえます。

一方、家族と主にどんな話をするかという質問にもかかわらず、「ほとんど話をしない」と回答した子が、小5で約4%、中2、高2では約10%いました。

そこで、「ほとんど話をしない」と回答した子に着目していくつかの項目との関連を見ると、家族とほとんど話をしない子は、家族からの注意に納得しないことが多く、注意されても無視する傾向があり、さらに家族からの注意に納得しなかったり無視したりすることが多い子は、悩みごとや心配ごとを家族に相談しない、あるいは誰にも相談しない傾向があることがわかりました。

《私たち大人ができること》

最近、不登校、引きこもり、家庭内暴力などに関連して、大人とのかかわりを避ける子どもや他人の気持ちを理解しない子どもが話題になることがあります。確かに、思春期を迎える小学校高学年から高校にかけての時期は、親との距離をおくようになることがあります。そんな中であるからこそ、家族としてむきあう場が大切です。思春期は、子どもらしい側面と大人に近い側面を合わせ持っている複雑な心理状態にある時期であり、まだまだ大人からの助言が必要です。過干渉・過保護あるいは放任とならないよう、適当な距離を探る努力が私たちには必要です。

そのためには、食事に出かける、買い物に行くなどの際に、ただ一緒にいるだけではなく、子どもの心とむきあう機会と捉え、いろいろな話題で心のキャッチボールをしましょう。日ごろからさりげないコミュニケーションを心がけていれば、大切な話をしなくてはならない時に、どんなボールを投げれば受け取れるかがお互いにわかり、相手の心を気遣いながら、ボールを投げたり、返したりできることが期待できます。

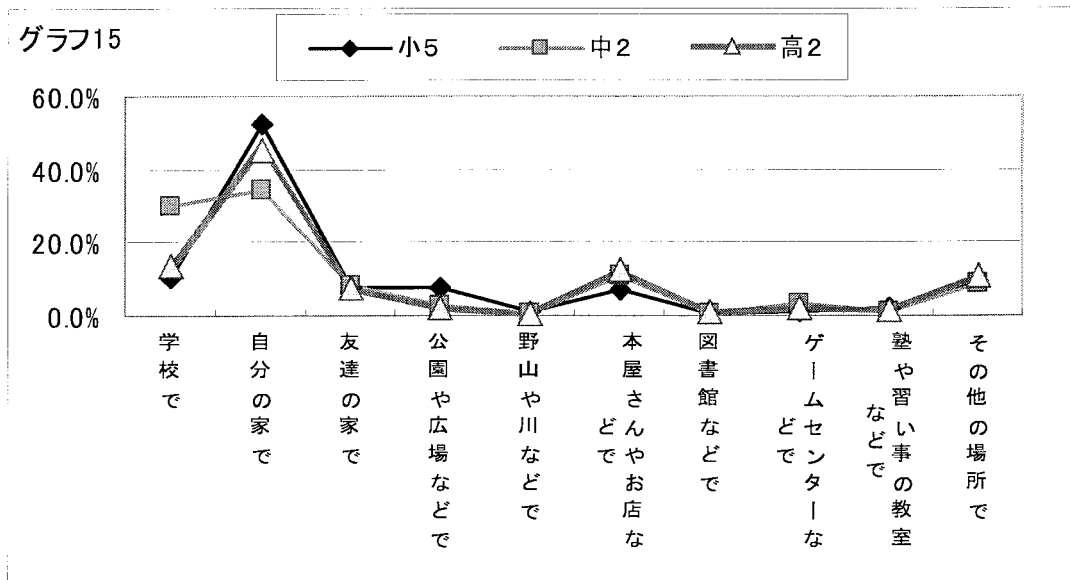
心のキャッチボールはできていますか？

【データ】

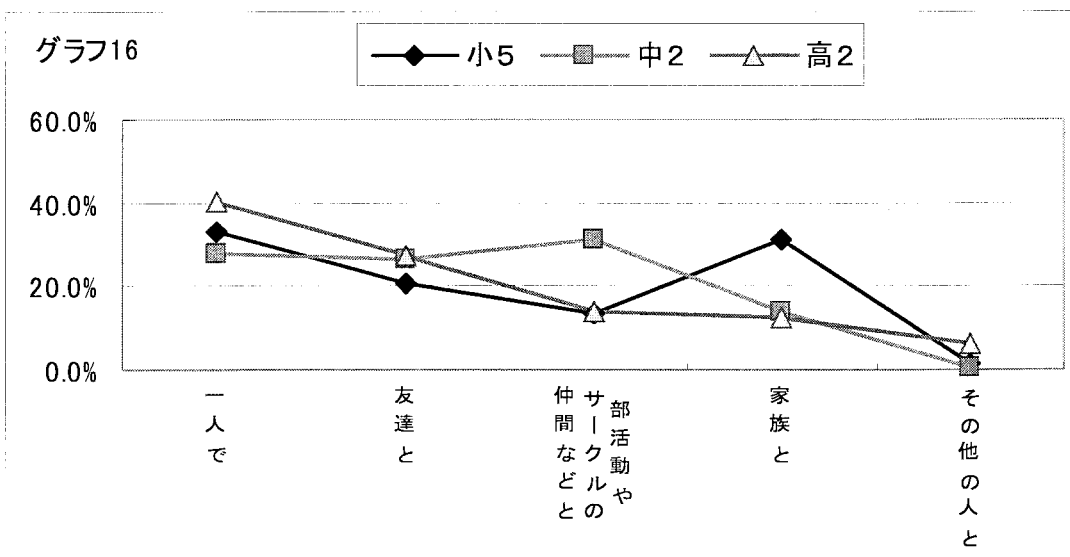
1 子どもたちの休日の過ごし方について、「一番目に多いこと」と「二番目に多いこと」の平均を、各学年で比較しました。

休日にどこで過ごすかを尋ねたところ、「家で」と回答した子は、小5では約50%、中2では約35%、高2では約50%でした(グラフ15)。

これに対して、誰と過ごすかという質問で「家族と」と回答した子は、小5では約30%、中2では約15%、高2では約10%に過ぎず、代わりに「一人で」が多くなっていました(グラフ16)。



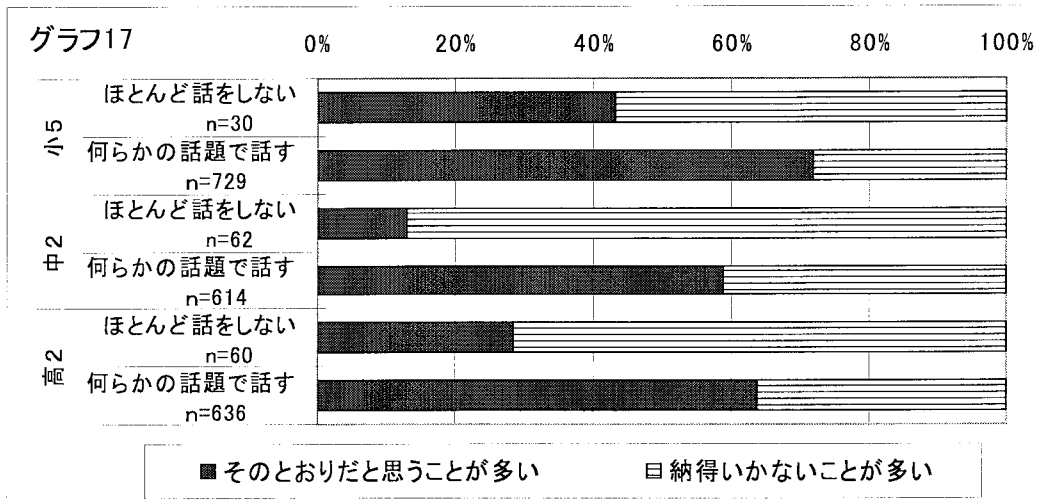
グラフ15:「休日どこで過ごすか」単純集計結果
(一番目に多いことと二番目に多いことの平均)



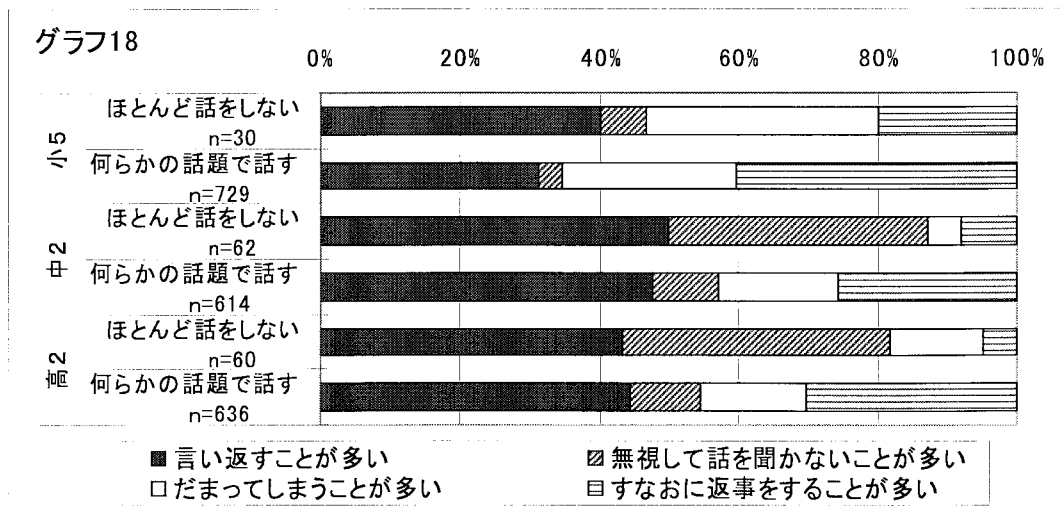
グラフ16:「休日誰と過ごすか」単純集計結果
(一番目に多いことと二番目に多いことの平均)

3 家族とほとんど話をしない子は、家族からの注意に対して「納得いかないことが多い」と感じる傾向が顕著であり(グラフ 17)、注意を受けたときに無視する傾向があります(グラフ 18)。

※ 「家族と主にどんな話をするか」への回答は、「ほとんど話をしない」群と、「何らかの話題で話す」群(「ほとんど話をしない」以外の回答)に類型化した。

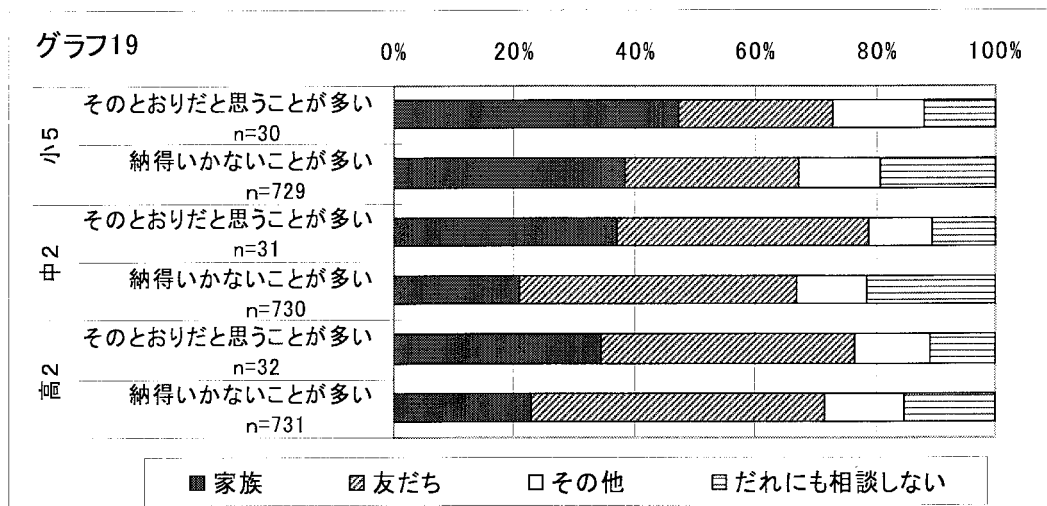


グラフ 17:「家族と主にどんな話をするか」と「家族からの注意や意見にどう感じるか」とのクロス集計結果

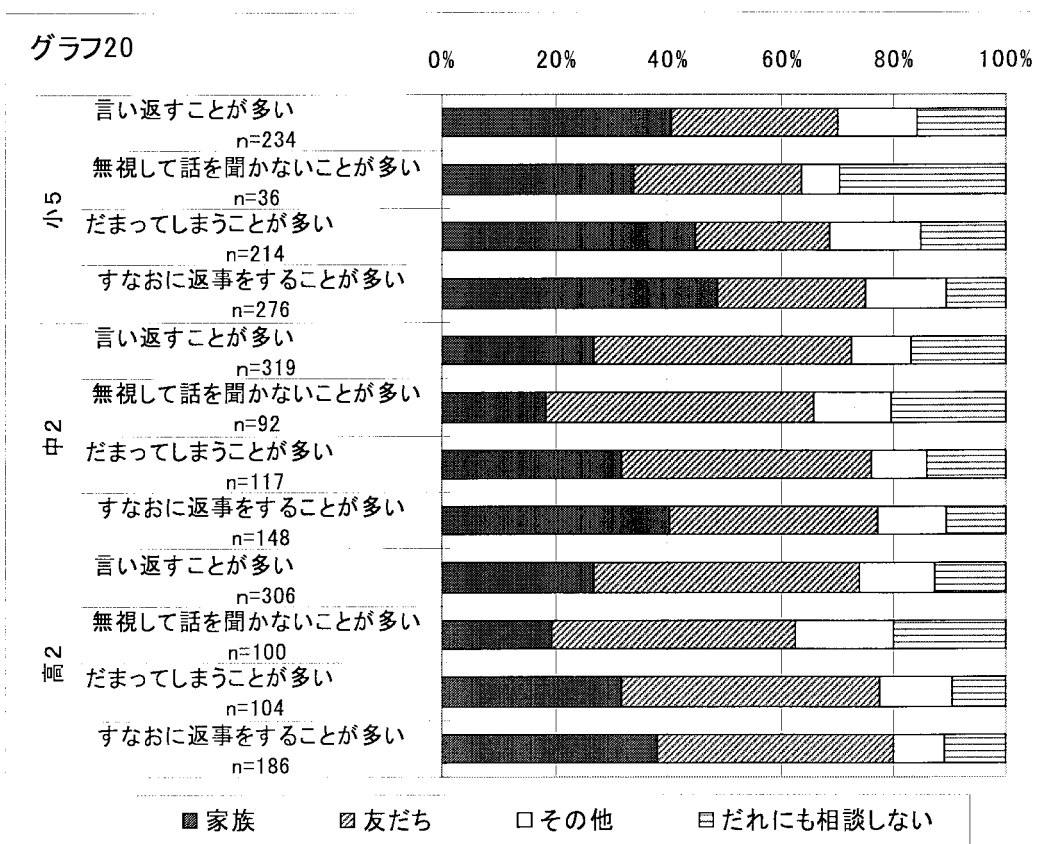


グラフ 18:「家族と主にどんな話をするか」と「家族からの注意や意見にどのような態度をとるか」とのクロス集計結果

4 家族から受けた注意に「そのとおりだと思ふことが多い」と答えた子は、悩みを家族に相談する傾向があります。反対に、注意に対して「納得いかないことが多い」と答えた子は、悩み事を「家族」に相談する割合が低く、誰にも相談しない傾向があります(グラフ 19)。同様に、注意に対して「無視して話を聞かないことが多い」と答えた子は、「家族」に相談せず、誰にも相談しない割合が高いことがわかります(グラフ 20)。



グラフ 19:「家族からの注意や意見にどう感じるか」と「困ったことや心配なことがあるときの相談相手」とのクロス集計結果



グラフ 20:「家族からの注意や意見にどのような態度をとるか」と「困ったことや心配なことがあるときの相談相手」とのクロス集計結果